資料５

富士市立小・中学校

新しい 学校づくり通信 Vol.1

令和8年6月17日発行　富士市教育委員会　学校適正配置推進室

富士市の**小・中学生の人数は年々減少**していて、平成27年が21，391人、令和2年が19，932人でしたが、令和8年は17，250人となり、当初想定していたペースを上回るスピードで減少しています。

≪　参考に、次ページの「令和8年　中学校区別児童生徒数推移」をご覧ください。　≫

こうした中、教育委員会では、小・中学校の適正規模・適正配置の在り方を検討するとともに、小中一貫教育を推進し、教育の質のさらなる充実を図るため、教育総務課内に**『学校適正配置推進室』**を設置しました。

「新しい学校づくり通信」では、学校再編に関する様々な情報を、学校・保護者・地区の皆さまなどに随時お知らせしますので、**”未来の学校のカタチ”**を、一緒に考えていただけると幸いです。

どうなる学校？どうする学校？

少子化が進んでいくと学級数が減少し、小規模校や単学級（1 学年に 1 学級）のある学校が増加していくことが予想されます。そこで今回は、***大規模校・小規模校のメリット・デメリット*** についてご紹介します。

	メリット	デメリット
大規模校	・クラス替えを行うことができ、児童生徒の人間関係が広がる ・お互いに切磋琢磨しあう機会が増える ・多様なものの見方や考え方に触れる機会が増える ・クラブ活動や部活動の選択の幅が増える ・教育活動全般において活気が出る	・一人ひとりの活躍の場や機会が減る ・施設の利用に制約が出る ・一人ひとりの個性や行動を把握して、きめ細かな指導を行うことが困難になる
小規模校	・意見、感想を発表するなど活躍の場や機会が多い ・運動場や体育館、特別教室等の教育機器など余裕をもって使うことができる ・一人ひとりの学習状況や学習内容の定着状況を教員が的確に把握し、きめ細かな指導を行いやすい	・単学級であることが多いため、クラス替えができず人間関係が固定化しやすい ・クラス同士が切磋琢磨し、高めあうような教育活動が行いにくい ・多様なものの見方や考え方に触れることが難しい ・社会性を涵養（かんよう）する機会が乏しい ・クラブ活動や部活動の種類が限定される

今後のスケジュール（予定）

○「適正規模・適正配置基本方針」の改定（R8.8 月）
○ 中学校を会場とした中学校区ごとの説明会の開催（R8.10 月～11 月）※詳細は次号に掲載
○ 学校再編計画の策定（R10.3）

編集後記

植物がお日様の光を浴び、恵みの水を浴びて育つように、
人は人を浴びて人として成長していくということです。
多くの人との出会いから学び育まれる力は、

人として確かな生きる力、
生きぬく力につながっていくもの
と思います。(Sai)

令和8年　中学校区別児童生徒数推移

中学校区	小学校区	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小1～中3計
吉原第一中学校	吉原小学校	40	55	45	52	74	58	73	76	66	62	87	72	200	194	180	1,553
	伝法小学校	59	57	65	60	66	71	74	81	90	85	115	98				
	計	99	112	110	112	140	129	147	157	156	147	202	170				
吉原第二中学校	今泉小学校	36	58	55	54	60	76	64	85	87	87	83	97	175	174	143	1,520
	青葉台小学校	60	69	82	99	92	105	82	101	89	75	95	83				
	計	96	127	137	153	152	181	146	186	176	162	178	180				
吉原第三中学校	原田小学校	24	28	37	36	31	43	38	50	53	53	55	69	127	108	113	939
	吉永第一小学校	28	34	27	39	30	42	41	45	49	50	41	47				
	計	52	62	64	75	61	85	79	95	102	103	96	116				
元吉原中学校	元吉原小学校	19	27	19	33	33	29	28	34	38	40	47	50	37	48	55	377
須津中学校	東小学校	5	3	9	7	4	3	10	5	8	9	6	12	98	96	101	837
	須津小学校	43	41	58	42	57	59	70	79	88	77	94	84				
	計	48	44	67	49	61	62	80	84	96	86	100	96				
大淵中学校	大淵第一小学校（吉原林間含む）	23	28	30	39	36	57	58	60	67	94	88	90	102	103	108	770
	（うち旧大淵第二小学校）	0	2	1	1	0	0	0	2	1	2	0	1				
富士中学校	富士第一小学校	66	87	69	75	81	94	102	98	92	108	103	110	208	190	235	1,768
	富士中央小学校	48	51	64	54	109	60	77	82	98	87	101	77				
	計	114	138	133	129	190	154	179	180	190	195	204	187				
田子浦中学校	田子浦小学校	82	77	94	107	109	95	122	107	115	114	107	91	90	94	82	922
岩松中学校	岩松小学校	57	55	63	78	67	91	52	55	72	73	76	88	164	189	181	1,520
	岩松北小学校	71	60	88	75	95	76	85	98	95	93	104	95				
	計	128	115	151	153	162	167	137	153	167	166	180	183				
富士南中学校	富士第二小学校	87	69	83	77	70	77	84	61	83	85	91	100	236	245	239	2,139
	富士南小学校	136	126	141	126	154	128	150	141	176	134	148	166				
	計	223	195	224	203	224	205	234	202	259	219	239	266				
鷹岡中学校	鷹岡小学校	79	67	72	82	82	99	78	78	97	87	109	89	144	143	157	1,253
	天間小学校	34	27	34	34	26	54	34	48	52	41	46	50				
	計	113	94	106	116	108	153	112	126	149	128	155	139				
岳陽中学校	広見小学校	50	61	65	61	61	75	90	79	93	89	96	92	227	221	254	2,045
	丘小学校	89	105	106	111	115	122	116	114	137	159	140	138				
	計	139	166	171	172	176	197	206	193	230	248	236	230				
吉原北中学校	神戸小学校	23	22	28	38	30	31	27	32	23	35	36	23	99	88	113	755
	吉永第二小学校	4	8	6	7	7	11	13	10	9	12	9	13				
	富士見台小学校	16	16	26	27	30	34	26	30	33	40	43	41				
	計	43	46	60	72	67	76	66	72	65	87	88	77				
富士川第一中学校	富士川第一小学校	18	27	29	24	45	42	36	41	50	57	56	60	45	48	60	453
富士川第二中学校	松野学園小学部	15	26	21	21	33	20	32	38	33	40	44	58	49	57	48	399
合計		1,212	1,284	1,416	1,458	1,597	1,652	1,662	1,728	1,893	1,886	2,020	1,993	2,001	1,998	2,069	17,250

※0～5歳は富士市人口統計（4月1日時点）、小学1年生～中学3年生は学級編制表（5月1日時点学級編制表）より

※桃色部分は、単学級（1学年に1学級）の箇所を示しています。

小中学校児童生徒数　合計17,250人

富士市立小中学校

新しい 学校づくり通信 Vol.2

令和8年7月14日発行　富士市教育委員会　学校適正配置推進室

人は人を育てて人となる

★ 小中学校再編計画等策定委員会を開催しています

令和７年度から、学識経験者・ＰＴＡ代表・地域の代表・公募市民・保護者代表・校長先生が委員となり、富士市の目指す「新しい学校づくり」について話合いを行っています。

これまでに４回の会議を開き、未来を担うこどもたちが安心して通うことのできる『これからの学校像』を明確にするため、令和２年度に策定した小中学校適正規模・適正配置基本方針の改定を進めています。

本号では、“義務教育学校とは？？”と、“基本方針改定の検討状況”についてお伝えします♫。

◎会議の開催状況

第１回	令和8年2月6日 （金曜日）
第2回	令和8年3月27日（金曜日）
第3回	令和8年5月18日（月曜日）
第4回	令和8年7月2日 （木曜日）

「義務教育学校」とは？？

学校教育法の改正により平成 28 年から新設された制度で、小学校の６年間と中学校の３年間（計９年間）の教育を一貫して行う、**新しい種類の『学校』**です。

従来の「６・３制」にとらわれず、一人の校長と一つの教職員組織のもとで、９年間の連続したカリキュラム「４・３・２制」などを実施できることが特徴です。

全国の義務教育学校の数は 261 校（R7.5.1 時点）で、まだ小中学校の１％にも満たない数ですが、毎年増加しています。なお、県内の義務教育学校は３校で、**富士市では未設置**です。

基本方針改定の検討状況

第１回（R8.2.6）

第１回会議では、まず委員への委嘱状（校長は辞令）を交付しました。

続いて、太田教育長から、本市の教育体制の現状や本委員会を設置した経緯について挨拶があり、その後、委員の自己紹介と委員長の選任を行い、静岡大学の武井教授が委員長に選任されました。

協議事項は、
⑴ 適正規模・適正配置基本方針の改定について
⑵ 今後のスケジュール
の２点で、事務局の説明後に協議を開始し、第１回から活発な意見交換が行われました。具体的には、現状把握と協議の方向性の確認が中心となりました。

★★主な意見★★
- 施設のあり方として、小中一貫校を目指すのか、義務教育学校を目指すのか、方向性を明確にする必要がある。
- 閉校後の活用は、地域にとって重要な課題である。
- 松野学園については、義務教育学校ではなく小中一貫校であるとの認識で周知を進めていく。
- 再編により通学距離が延びる場合は、スクールバスの導入など、見守り体制を確保する仕組みが必要である。

第2回（R8.3.27）

第２回会議では、基本方針の改定内容について、前回よりも踏み込んだ協議を行いました。
⑴ 適正規模・適正配置について
⑵ 今後のスケジュール
の２点で、具体的には、〔小中学校の配置条件〕に『義務教育学校』に関する規定を追加することなどを確認しました。

★★主な意見★★
・学校再編は、教育行政だけでなく、まちづくりと一体的に考えることで、新たな可能性が生まれる。
・学校再編に当たっては、地域にとってプラスとなる複合施設の整備も検討してほしい。
・交通手段についても、学校再編と合わせて整理していく必要がある。

第3回（R8.5.18）

第３回の会議では、改定前後の新旧対照表などを用いて協議を行いました。
具体的には、『当面の間は現行の中学校区を維持すること』や、『将来的には中学校区の再編も視野に入れていくこと』といった規定を追加することなどを確認しました。

★★主な意見★★
・学校再編に当たっては、年齢の低い子どもほど精神的負担が大きくなることが想定されるため、家庭環境への影響も含めて配慮する必要がある。
・少人数で過ごしてきた児童の中には、中学校進学後に大人数の集団への対応が難しくなる場合もあり、保護者も不安を抱えていることから、再編はよりスピード感をもって進めてほしい。
・丁寧な情報発信に努め、学校再編を進める中でも、まちづくりの視点を十分配慮した上で対応してほしい。
・再編は、建物や地区割りを基準に進めるのではなく、「こどもの教育を中心」に考えるべきである。

会議の様子

第4回（R8.7.2）

第４回の会議では、基本方針改定版の全編冊子を使って協議を行いました。
今回が改定に向けた最後の協議となり、軽微な修正の意見はありましたが、内容に関しては賛同を得られました。また、改定後の周知に関する意見も多く出ました。

★★主な意見★★
・周知に当たって、町内会連合会やまちづくり協議会の役員には、紙資料も配布できるよう配慮してほしい。
・学校再編に関する情報は、学校関係者を通じて発信した方が、内容の理解や問い合わせ対応がしやすい。
・児童生徒数の将来推計だけでなく、学級数の推移も示した方が、再編の必要性がよりわかりやすい。
・学校再編が進むことで、通学距離の増加や周辺地区の人口減少の加速が懸念される。

@小中学校再編計画等策定委員会の開催状況は、富士市ウェブサイトで公開しています。
詳しくはこちら⇒ https://www.city.fuji.shizuoka.jp/4005050000/p005559.html

QR コードはこちら

編集後記

家を建て替えるとき、引越しをするとき、生まれ育った我が家との別れは、
寂しいものです。
その建物にはたくさんの思い出が詰まっているからです。とはいっても、
新たな出発の時、それは乗り越えなければなりません。
新しい場所で新しい生活、新しい世界に新しい自分、
この変化に柔軟に対応し、プラスに転じるしなやかさが必要な気がします。
学校再編を考えたとき、
ふとこんな思いが胸をよぎりました。（Sai）

富士市立小中学校

新しい 学校づくり通信 Vol.3

令和8年8月21日発行　富士市教育委員会　学校適正配置推進室

人は人を育てて人となる

新しい学校づくりに向けて

～市立小中学校適正規模・適正配置基本方針を改定しました～

教育委員会では、**こどもたちの豊かな学びを維持・継続するため**、

令和２年６月に「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」を策定し、
令和５年４月に「大淵第二小学校」を「大淵第一小学校」に統合、
令和６年４月に「吉原東中学校」を「吉原第三中学校」に統合しました。

また、昨年度から、学識経験者や地域、保護者、小中学校の代表者などの意見を聞きながら協議を重ね、**本年７月に基本方針を改定**しました。

今後は、改定後の基本方針に基づき、令和９年度末を目途に「（仮称）富士市立小中学校再編計画」を策定し、『新しい学校づくり』を進めるとともに、児童生徒にとってより良い教育環境を整備し、教育の質のさらなる充実を図ります。

本号では、①基本方針とは？？、②児童生徒数と学級数の推移、③基本方針改定のポイント、④基本方針説明会についてお伝えします。

①「基本方針」とは？？

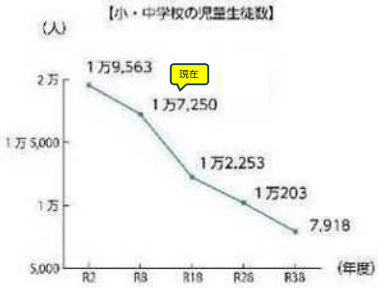
「富士市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」は、こどもたちにとってより良い学びの環境を整えるため、**望ましい学校の規模や配置の考え方を示すもの**です。

少子化による児童生徒数の減少などを踏まえ、小中一貫教育の充実や学校の適正化について、地域や保護者の皆さまと話し合いながら進める方向性を定めています。

なお、基本方針は、「今後の取組を進める上での方向性や考え方を示すもの」であって、具体的な施策や事業そのものではありません。

② 児童生徒数と学級数の推移

令和２年度の富士市立小中学校の児童生徒数は19,563 人でしたが、令和８年度には 17,250 人となり、さらに 30 年後の令和 38 年度には 7,918 人まで減少すると推計されています。



学級数も児童生徒数に比例して減少しています。令和２年度は 650 学級でしたが、令和８年度には 584 学級となり、今後も減少は続く見込みです。

③ 基本方針改定のポイント

（1） 適正化の検討を学校単位から中学校区単位とし、当面の間は、現行の中学校区を維持

令和6年度に市内全ての中学校区で始まった小中一貫教育とコミュニティ・スクールの仕組みを生かし、「地域とともにある学校づくり」の視点で小中学校の再編を検討します。

（2） 望ましい学校規模及び配置条件に義務教育学校を追加

学校規模／小学校：12学級以上24学級以下（各学年2～4学級）
中学校： 9学級以上18学級以下（各学年3～6学級）
義務教育学校：18学級以上36学級以下（各学年2～4学級）
配置条件／小学校：通学距離おおむね4キロメートル以内
中学校・義務教育学校：通学距離おおむね6キロメートル以内
通学時間：おおむね1時間以内

（3） 再編する際は、施設一体型の小中一貫校又は義務教育学校の設置を基本と明記

今後の学校施設の状況、児童生徒数の推移、地域の実情などを踏まえながら、学校の再編を行う場合には、現行の中学校区を維持しながら、施設一体型の小中一貫校又は義務教育学校の設置を基本として、より良い教育環境の整備を目指します。

（4） 1学級当たりの最少人数基準を 18 人と明記

児童生徒がさまざまな考え方や性格の同年代の仲間と関わり、円滑にコミュニケーションできるよう、本市では、1学級当たりの最少人数を18人とします。

④ 基本方針説明会を開催します

本市の教育環境の現状と改定した基本方針について、中学校区ごとに中学校の体育館で説明会を予定しています。ぜひご参加ください。

日時・場所／

10月1日	(木)	吉原第二中	10月19日	(月)	吉原第一中	11月10日	(火)	岳陽中
10月6日	(火)	吉原第三中	10月22日	(木)	田子浦中	11月12日	(木)	吉原北中
10月8日	(木)	元吉原中	10月27日	(火)	岩松中	11月17日	(火)	富士川第一中
10月13日	(火)	須津中	10月29日	(木)	富士南中	11月19日	(木)	富士川第二中
10月15日	(木)	大淵中	11月5日	(木)	鷹岡中	11月24日	(火)	富士中

※すべての開始時間は、18時30分。
※上履きをお持ちください。駐車場に限りがあるので、車での来校はお控えください。

詳しくはこちら

編集後記

こどもの心を育てる「魔法の言葉」を調べてみました。
こどもに掛ける言葉は、すぐに結果を出すわけではありませんが、時間をかけて心の中で育ち、やがてその子の考え方や習慣、行動そのものを変えるきっかけになります。
日々忙しく忘れがちなことですが、言葉の掛け方や内容を再度意識していけたらよいですね。（Sai）

ほめてあげれば、子どもは明るい子に育つ
認めてあげれば、子どもは自分が好きになる
見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる

（参考文献：ドロシー・ロー・ノルトの「子どもが育つ魔法の言葉」）